

敬老健康パスに関するFAQについて

Q1	どうして健康寿命の延伸を目指すのか。	健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことを言います。市民の皆様がこの期間を延ばすことができれば、一人一人が長く、健やかで心豊かな生活を送ることができるものと考えております。 また、札幌市民の健康寿命は全国平均を下回っておりますが、大都市間と比べると健康寿命が長いほど要介護認定率が低い傾向が見られることから、高齢者の健康増進はとても大切なことだと考えています。
Q2	敬老パスを敬老健康パスに発展させるとの検討に至った経緯を教えてください。	札幌市として、健康寿命の延伸に取り組む理由はQ1のとおりです。 敬老パス制度は既に多くの市民に普及している制度であります。その目的は外出を支援し、明るく豊かな生活の充実を図ることであり、まさに健康寿命の延伸につながる施策といえます。 この敬老パスを敬老健康パスに発展させ、健康づくりと社会参加のきっかけを後押しし、これまでよりも多くの方が活用いただける仕組みにすることで、健康寿命の延伸につながることを考えました。
Q3	どうして敬老パスを変えるのか。	敬老パス制度は、高齢者の外出を支援し、明るく豊かな生活の充実を図るための施策であり、健康寿命の延伸にもつながる一方、半数以上の方はチャージを行っていません。 また、対象者のうち9%の5万円以上チャージしている方が事業費の約半額（約24億円）を必要としているなど、利用実態には大きな偏りがあります（令和4年度実績値）。 このほか、敬老パス制度はバス・地下鉄・市電でしか利用できないため、主な交通手段としてJRやタクシーを利用されている方、年齢や体調によって外出が難しい方は、制度を利用することができていませんでした。 こうしたことを受け、敬老パスの本来の趣旨に立ち返り、ひとりでも多くの市民の参加に活用いただける、より良い形へと発展させていただきたいと考えております。
Q4	ポイントの交換上限はなぜ2万円なのか。	敬老パス制度の対象者1人当たりの平均利用額は、平成30年度実績（新型コロナウイルス感染症流行前）で約1万4千円、令和4年度実績では約1万1千円です。 敬老健康パス制度の交換上限は、こうした敬老パスの利用実態を考慮し、多くの方にご利用いただけるような設定としております。
Q5	敬老健康パス制度の対象を教えてください。	敬老健康パス制度の対象者は、現行の敬老パスと同じく70歳以上の札幌市に住民登録がある方を対象と考えております。
Q6	スマホを持ってなくても、事業に参加できるのか。	ポイントカードなどで事業に参加できるようにします。 希望する方にはポイントカードなどを郵送し、イベントなどに参加する際にご提示頂くことでポイントを貯めていく形を検討しております。 なお、歩数の計測など、スマホアプリを使わなければポイントにすることが難しい活動もあるため、スマホ教室の開催や教室参加者へのポイント付与など、デジタルの活用を後押しする取り組みを並行して進めていきます。
Q7	障がいのある方にはどのように対応するのか。	障がいのある方に対する交通費の助成については、別途障がい者交通費助成制度を実施しております。 こちらの障がい者交通費助成制度は引き続きご利用いただくことが可能です。
Q8	高齢で病弱な方や要介護者など、歩くことも困難な市民はどのようにポイントを貯めるのか。また、公共交通機関等を利用できない場合、貯めたポイントはどのように使うのか。	身体的な事情等により歩くことや介護予防等の活動が難しい方に対する配慮は必要と考えております。 活動が難しい方に対しては、ポイントを付与し、利用いただける仕組みとすることを検討しております。 どのようにポイントを付与するとよいかなど、市民の皆様からお考えをお聞かせいただきたいと思います。
Q9	敬老健康パスの予算規模（事業費）はどの程度か。	敬老健康パス制度では、現行敬老パスの市税負担分と同規模の予算を維持したいと考えております。
Q10	敬老健康パス制度の最終案はいつ頃公表されるのか。	これから10区で行う市民意見交換会や市民アンケート（対象：1万人）、コールセンター、メッセージフォーム等で頂戴した市民の皆様の声を踏まえて、敬老健康パス制度として事業案を固め、年度内にお示ししたいと考えております。
Q11	敬老健康パス制度はいつ開始することを考えているのか。	令和7年度中の開始を目指して検討を進めてまいります。
Q12	この素案が認められた場合、敬老パスはいつまで使えるのか。	敬老健康パスが本格的に開始する令和7年度までは現行の制度を継続したいと考えております。 なお、現行の敬老パスにチャージされた残額に有効期限はありませんので、引き続き利用することが可能です。

Q13	どうして若い人の意見を聞くのか。	今回お示しした素案は、当事者である高齢者だけでなく、長い目で見れば今の現役世代、若い世代にも将来的に関わってくる事柄と考えております。 歳を重ねることは誰にでも訪れる未来であり、ご自身の、そして札幌の未来について考えるきっかけとしていただきたく、若い世代の意ご意見を伺わせていただきます。
-----	------------------	---